

第46回優秀畜産技術者表彰受賞者業績概要

浅井 英樹	カリウム過剰摂取牛を特定するための診断法を確立した。また、飼料畑におけるアメリカイヌホオズキの防除法を明らかにし、近赤外線分析法を活用した粗飼料成分の迅速測定法を確立し飼料の品質向上、品質評価に貢献した。
岩本 英治	但馬牛の遺伝学的改良手法の開発や呈味成分に影響する遺伝的要因ならびに飼養方法に関する研究など、美味しさ成分の評価基準の設定、呈味成分を加味した改良に貢献し、その業績は種雄牛の育種価評価にも活用されている。
大坂 郁夫	早期受胎のために飼料設計を見直し、発育促進のための哺乳期から育成前期までの飼養法を提示した。また、初産乳量向上のための育成妊娠期の栄養水準の検討を行い、分娩時の体格が乳量向上に効果があることを示し生産現場で活用されている。
栗田 隆之	ランドレース種及び大ヨークシャー種における繁殖能力の改良やデュロック種における産肉能力の改良について成果を上げ、他県では例をみない3品種の系統造成及び維持・普及に努め県内養豚振興に貢献し業績をあげた。
後藤 美津夫	採卵鶏の経済能力検定において能力比較調査方法の見直しを行い、その精度を高め鶏種選定の重要な指針として発展させた。また、生産性向上に向けた技術開発や「上州地鶏」等地域ブランドの確立にも貢献した。
嶋澤 光一	地域未利用資源の貯蔵法、給与法を開発するとともに、生産した豚肉の特性を明らかにする研究を行った。廃棄物処理費用の削減と飼料費低減の両方に有効な技術として実用化し、地域資源を活用した資源循環型畜産を普及した。
長井 誠	牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）の研究においてウイルス遺伝子や血清学的検査を駆使した疫学解析手法により、バルク乳検査を通じて乳用牛のBVDV感染牛の摘発淘汰を推進し、石川県内での清浄化に成功した。
中原 仁	牛胚の効率的な性判別技術の開発と全国初の雌胚供給事業の推進を行い牛群改良速度を著しく速めた。また、簡易・低コストな正常胚数増加技術の開発など簡易化や低コスト化を図り県内受精卵移植技術水準を大幅に向上させた。
山本 泰也	水田自給飼料を活用した乳牛飼養技術の開発に携わってきた。乳牛へのイネ・コムギWC Sおよび飼料用米の給与技術研究開発やこれらの自給飼料や食品製造副産物を活用した発酵TMR調製・給与技術の開発等、酪農経営に有用な技術を確立。
脇屋 裕一郎	生物膜法を利用した汚水処理技術として少ない維持管理費で安定したBOD等有機成分の除去が可能な技術を確立したほか、畜産排水からのリン除去・回収システムの開発など畜産排水処理・利用技術の向上に寄与した。